



やったぞ!

矢板中央

堂々の

全国第3位!

無冠の強豪 ～ 選手権までの軌跡 ～

今シーズン、矢板中央高校サッカー部は「新人戦」「関東大会」「インターハイ」と、大きな大会の県予選で全て敗退し、結果を残すことができていなかった。選手権県予選で奮起し、前回の選手権で全国第3位になった佐野日大高校を

3 - 0で勝利し、2年ぶり8度目の全国大会出場を決めた。

「第96回全国高校サッカー選手権大会」2回戦から栃木県の代表として登場。チーム一丸となって挑んだ結果、全国の並みいる強豪を撃破し、歴代最高成績に並ぶ、

全国第3位を勝ち取った。奇跡の復活を遂げた矢板中央高校サッカー部に、全ての人から温かい拍手が送られた。

これまで、周囲から「史上最弱」と揶揄よされていたチームが最後に見せた底力とは...



高橋 健二 監督

矢板中央高校サッカー部監督に就任して24年。就任当時、部員13人の小さなチームから、部員数150人超の全国大会出場8回を誇る強豪チームに育て上げた。

全国大会への道は**険**しかった

前回の選手権県予選で敗れてから、新チームづくりがスタートした。県内で勝てるチームをつくらうとしたが、新人戦、春の関東大会、夏の高校総体では、県大会で満足いく成績を残すことができなかった。得点してもすぐに失点してしまうことがあり、一発勝負



に弱かった。プレースタイルが定まっていなかったし、選手も私も春先は試行錯誤しながらプレイングの時期であった。インターハイでは真岡高校に準決勝でPKの末敗れるなど、勝ちきれない弱さがチームにあった。周りからは「史上最弱」と揶揄されることもあった。先輩たちが獲得して残してくれた県大会や各種大会、地区大会の優勝カップが、大会ごとになくなっていくことに危機感を覚えた。そして、優勝カップが全部なくなった。

私も選手も自信を失いかけていた。ここまできたら、選手権に向けてゼロからのスタートだという思いで突き進んだ。やはり矢板中央の原点である、いい守備からいい攻撃「堅守速攻」に立ち戻りチームを立て直しにかかった。無冠であるがゆえに選手権へかける思いが強かった。

復調のきっかけとして大きかったのが、夏のフットサル大会での経験。フットサルコートでの優勝、プリンスリーグに参入できたことで私も選手も自信を取り戻すことができた。

全員が一丸となって選手権の県予選を勝ち抜いた。苦しみを乗り越え、全て出し切った結果が全国第3位という形になった。



無冠で迎えた選手権…主将の思いとは

主将として、勝てない時期に部員をまとめることの難しさを痛感した。「3年生から発信するだけでなく、2年生もどんどん意見を言ってほしい」。何度もミーティングを開き、上下関係なく部員みんなでチームの問題点を出し合った。話し合いを重ねることで、チームに連帯感・一体感が生まれた。夏ごろまでは、個々の選手のフィジカルや技術を生かしたポジションサッカーをしていたが、全国大会の県予選トーナメント戦となると結果を出すことができなかった。

気落ちしていたとき、部室で先輩たちが書き残したメッセージの中に、星キョーワン先輩のものを見つけた。星先輩の時代もインターハイを落としたが、チームを立て直し選手権に出場した。先輩たちの経験を見ていて、自分

ちが変われば、選手権までにチームは変わることができると思っていたので、そのメッセージは自分たちの思いと重なる場所があった。

それを見て、「ここで負けていけない」という気持ちになったし、夏のインターハイ予選で負けた以上、冬の選手権では結果を出してやろうと思った。自分たちが1年生の時に星先輩が3年生で、全国大会の光景を見させてもらった。その景色をもう一度見ることが自分たちの目標だった。

自分たちのチームがまだまだ力不足だということは理解していた。「史上最弱」から抜け出すためにも、夏以降は「堅守速攻」の原点に立ち戻りチームを立て直した。緊張感を持って県予選トーナメントに挑み、みんなの力で全国の切符を手に入れた。



稲見 哲行 主将

走り込みやハードな練習を率先してこなす姿を見せることで、150人超の部員をまとめあげ、全国大会の出場を決めた。

フットサル全国大会の**優勝**が大きな契機に

関東大会・インターハイの県予選でもまさか敗退するとは思っていなかった。監督やコーチも選手権こそは勝たせてあげたいという思いで選手を指導していた。

そのような中、2年生を中心に選手編成したフットサル全国大会での優勝は、3年生にとっても後輩に負けていけないというよい刺激になったし、2年生も全国で優勝できる実力があるんだという自信を持つことができたという点で、よいきっかけになったと思う。



個々の選手を見ると技術などでよいものを持っているのに、なぜサッカーの公式戦では勝てないのかと、モヤモヤした気持ちでしたが、チームが1つになってかみ合えば優勝できる実力を持っていることを確認できた。フットサルはコートが狭い分、攻守の切替テンポが速い。チャンスを確実に得点につなげる技術が、選手権にも生かされた。

3年生で唯一参加した稲見主将が2年生の選手をうまくまとめ、優勝に導いてくれた。これをきっかけに主将と2年生の信頼関係が強くなったことが、選手権での結果につながったのだと思う。



君嶋 渡紀子 部長

第4回全日本ユースフットサル大会では、チーム監督として、初出場で初優勝に導き、大会初の女性優勝監督となった。

部室に残された先輩からのメッセージ

1年前の全国高校サッカー選手権大会、佐野日大の活躍を見て悔しさを噛みしめた。春先の新人戦では準優勝。関東大会県予選でも好成績を残せると思っていた。結果は、まさかの初戦敗退。夏のインターハイ県予選、しっかりと練習を積んで挑んだが決勝にすら進めなかった。肩を落とす主将がふと目にした、部室の壁に書かれた言葉とは...

冬こそ自分達**が**笑う
星キョーワン



第4回 全日本ユース(U-18)フットサル大会



「史上最弱」と揶揄されたチームが
全国の舞台でみせた奇跡とは

第96回全国高校サッカー選手権大会ダイジェスト



2回戦 1月2日 NACK5スタジアム大宮

 矢板中央 3-2 三 重 
(三重)

得点力の高さで逃げ切り

試合開始直後の前半2分、#9 FW 久永寿稀也が中央からのロングボールに合わせ、ヘディングシュートを決め先制。25分には三重に、ゴールキーパーが弾いたこぼれ球を押し込まれ同点に追いつかれるも、その3分後に主将の#6 MF 稲見哲行がボレーシュートを決め勝ち越しのゴールを奪った。

後半25分に#4 DF 白井陽貴がコーナーキックのチャンスを生かし三重を突き放す3点目を追加。試合終盤は、三重が攻勢で苦戦する時間帯が多くなるが、鉄壁の守りで失点を防いだ。残り8分に1点差まで詰め寄られるが、初出場の三重の追い上げをかわし逃げ切った。

3回戦 1月3日 浦和駒場スタジアム

 矢板中央 1-0 神村学園 
(鹿児島)

好機を生かし、鉄壁の守りで猛攻を防ぐ

強風が吹き荒れる中、試合が始まった。前半15分、#3 DF 内田航太郎のコーナーキックを#2 DF 高島裕樹がヘディングで折り返し、MF 稲見哲行が連日のゴールとなる右足でのボレーシュートを決め先制した。矢板中央の2本に対し、神村学園に6本のシュートを打たれ猛攻を受けるが、粘り強い守りで失点なく前半を折り返した。

後半も神村学園に押される展開が続くが、途中出場した#20 MF 板橋幸大が幾度となく左サイドを突破、ゴール前にボールを供給しチャンスを作り出した。後半も鉄壁の守りで神村学園を無得点に抑え、6年ぶり3度目の8強入りを果たした。

準々決勝 1月5日 浦和駒場スタジアム

 矢板中央 1-0 日本文理 
(新潟)

堅守速攻を貫き、終始攻勢で完封勝ち

序盤から豊富な運動量で終始中盤のボールを制し、1回戦から勝ち上がって勢いに乗る日本文理の攻撃を封じる展開が続く。前半35分に#19 FW 大塚尋斗がピッチに立つと、その直後ゴール前に果敢に攻め込みシュートを放つ。ゴールキーパーに弾かれるも、こぼれ球を右サイドに走りこんでいた#14 MF 山下純平が右足で蹴り込み、前半36分にゴールを奪った。

FW 大塚・MF 山下が決勝点に絡む活躍、MF 板橋幸大も華麗なドリブル突破を見せるなど、2年生組の活躍が目立った。高橋監督が日頃から「先発と交代枠を合わせた16人がレギュラー」と言うように、選手層の厚さが垣間見えた。

準決勝 1月6日 埼玉スタジアム2002

 矢板中央 0-1 流通経済大柏 
(千葉)

互いに堅守するも技ありの一蹴で惜敗

埼玉スタジアムのピッチに立てるのは、出場4093校のうち勝ち上がった4校のみ。決勝進出をかけた一番に矢板中央が挑んだ。前半は、球際の攻防で強さを見せた流通経大柏に再三押し込まれたが主将らの堅守で両校無得点で折り返した。後半19分に相手MFに技ありのボレーシュートを決められ失点。矢板中央は交代選手を次々に投入。攻撃の活性化を図り、後半6本のシュートを放つなど、再三相手ゴールを脅かすも得点にはつながらなかった。

無情にも鳴り響いたホイッスル。矢板中央初の決勝進出、県勢でも53年ぶりの決勝進出は来年に持ち越しとなった。



全国大会出場経験者 9人が残る 来年こそ 4000 校の頂点を目指す!!



白井 陽貴 新主将

昨シーズンは、新人戦・関東大会・インターハイの県予選で勝ち残ることができなかった。今年は、昨年の反省を踏まえ、悪い部分を修正しよい部分はさらに伸ばしたい。大きい目標としては、選手権での優勝だが、ほかの大会やプリンスリーグで一戦一戦しっかり勝ちを重ね、結果が残せる1年にしたい。

稲見主将がチームをまとめ引っ張ってくれ、松井先輩がプレー面で後輩を鼓舞して引き上げてくれたように、チームを1つにまとめチーム全体の力を引き上げたい。今度の1・2年生も試合に出たいというハングリー精神があると思う。互いに刺激を与えあえるようなチームにしていきたい。

選手権経験者9人が残っているが、だからと言って勝てるほど勝負の世界は甘くない。初心に帰り、ゼロからチームづくりをしっかりと行い、選手権で4000校の頂点に立ちたい。まずは、県予選を突破することも大変なことなので、一つひとつ勝利の階段を上っていきたい。今回、地元の人たち皆から本当によく応援してもらった。地元の応援の温かさを身に染みて感じた。感謝の気持ちでいっぱい。

さらに地元から応援されるチームになるために、あいさつや規律ある生活など基本的なことをしっかりとやっていきたいと思う。これからもぜひ温かく見守っていただきたい。



高橋 健二 監督

「大会優秀選手」選出おめでとう!



MF 稲見 哲行 (3年)

ボランチ (MF) は、ほかのポジションの影響を受けやすい。FW や DF の選手がしっかり役目を果たしているからこそ、中盤で相手の攻撃の芽を摘み、深い位置からゲームを組み立てるといった自分たちに与えられた仕事ができ、守備など目立たないところでがんばったことが評価されてうれしい。

後輩の実力は、自分たち以上だと思っている。上手いだけでなく、特徴を持った上でチームのために頑張れる選手が活躍できるのだと思う。チームがまとめられ、自分たちより上に行けると思うので、今回の結果に満足せずに頂点を目指してほしい。



MF 松井 蓮之 (3年)

全国大会の前から、日本一のボランチになることを目指していたが、叶わなかった。全国には素晴らしい選手がたくさんいることを改めて痛感した。その選手の中で、優秀選手として選ばれたことはとてもうれしいこと。全日本ユースの合宿などもあるので、さらに実力をつけ、上のレベルを目指せるよう頑張りたい。

自分たちはチーム一丸となって試合に臨み、この結果を残すことができた。今の1・2年生の中には本当に上手い選手、強い選手が自分たちの代よりたくさんいるので、チームが1つにまとめられさらに良い結果が出せると思う。



DF 白井 陽貴 (2年)

優秀選手に選ばれて、うれしい気持ちもあるが、選手権では、ケガなどで自分の調子で戦えなかったのもう少し良いプレーができたのではないかと考えている。ケガで試合に出ていない時などは、3年のセンターバックの高島先輩に助けられた。高島先輩の方が活躍していたと思っていたので、自分が貰っていたのかなという戸惑いがある。

優秀選手に選ばれたということは、誰かが自分のよいところを見てくれたということなので、よいところを伸ばし、技術不足を無くせるようがんばりたい。あと1年あるので、しっかりと修正して次の選手権で活躍したい。

矢板中央高校サッカー部 登録選手一覧

- ▼ GK
- 1 山梨 卯月 (3年)
- 12 安西 駿 (2年)
- 30 源関 隆輔 (1年)

- ▼ DF
- 2 高島 祐樹 (3年)
- 3 内田航太郎 (2年)
- 4 白井 陽貴 (2年)
- 5 後藤 裕二 (2年)
- 21 長江 皓亮 (1年)
- 22 五十嵐磨於 (2年)
- 28 池田 隼人 (2年)

- ▼ MF
- 6 稲見 哲行 (3年)
- 7 松井 蓮之 (3年)
- 8 江口 隼人 (3年)
- 10 飯島 翼 (2年)
- 13 土谷 大晟 (2年)
- 14 山下 純平 (2年)
- 15 高橋 利空 (3年)
- 17 廣田来次郎 (3年)
- 18 山下 育海 (3年)
- 20 板橋 幸大 (2年)
- 23 木村 泰晟 (2年)
- 24 伊藤 恵亮 (2年)
- 25 田村 隼大 (3年)
- 26 鶴見 英斗 (3年)
- 29 野澤 元 (1年)

- ▼ FW
- 9 久永寿稀也 (3年)
- 11 望月 謙 (2年)
- 16 吉原 諒 (3年)
- 19 大塚 尋斗 (2年)
- 27 石川 神伊 (3年)

▼役員・チームスタッフ

- 監督 高橋 健二
- 部長 君嶋 渡紀子
- アドバイザー 古沼 貞雄
- コーチ 金子 文三 上林 孝至
- 坪山 衝 稲田真之介
- 千葉 拓弥 木村 大地
- 岡本 駿弥
- トレーナー 木下 大地
- 顧問 白石 康之

